

## コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

②

ドイツ・フランクフルトは欧州中央銀行、ドイツ連邦銀行などが本部を構える国際金融都市であり、フランクフルト国際空港を中核とした交通、交易の拠点都市でもある。同空港は発着便数、乗降客数などがドイツ最大で、ヨーロッパを代表するハブ空港の一つ。2019年実績で年間約50万回の発着があり、約7千万人が利用している。フランクフルト空港会社

れ85・1%減、96・9%減だったことを思えば、底を打ったと見ることもできるが、依然として厳しい運営を強いられている。

渦中の5月26日、同社の株主総会がオンラインで開催された。ステファン・シユルテCEOは「今、私たちが、近代の航空史上で最も深刻な危機に直面している。金融危機後の大規模不況でさえ、無害であったと感ずるほどである。航空業

### フランクフルト



開散とするルフトハンザ航空のチェックインカウンター。2日、フランクフルト空港第1ターミナル出発ロビー

# 空港利用者戻るか

は毎月、その利用状況をホームページ上で公表している。今年5月は、発着回数約7800回（対前年同月の比83・2%減）、乗降客数約27万3千人（同95・6%減）だった。4月はそれぞれ

界が機能することは、経済活動を再活性化させ、世界経済への悪影響を抑制するのに不可欠」との談話を発表した。

旅客輸送のみならず貨物輸送、物流という面でも空

港が果たしている役割は大きい。同空港の利用状況が、いつ、どの程度まで回復してくるかは、ドイツや欧州の経済情勢を理解する一つの指標となる。横浜市内の企業は欧州ビジネスにも影

響いてくるため、継続してこの動向を注視していきたい。

（横浜市フランクフルト事務所長・玉井 猛）

■ 随時掲載